

## 令和 3 年 1 2 月 定例教育委員会 会議録

◇開 会	令和 3 年 1 2 月 2 3 日 (木)	午前 9 時 0 0 分
◇閉 会	令和 3 年 1 2 月 2 3 日 (木)	午前 1 0 時 5 0 分
◇会 場	3 F 「教育委員会会議室」	
◇出席者	教育委員会	
	・教育長	片 山 則 昭
	・教育長職務代理者	深 田 俊 郎
	・教育委員	横 山 真 弓
	・教育委員	安 田 真 理
	・教育委員	出 町 慎
	・教育部長	藤 原 泰 志
	・教育部次長兼学校教育課長	足 立 和 宏
	・学事課長	井 尻 宏 幸
	・文化財課長兼植野記念美術館 副館長兼中央図書館副館長兼 歴史民俗資料館長兼氷上回廊 水分れフィールドミュージア ム館長	山 内 邦 彦
	・教育総務課長	足 立 勲
	・教育総務課企画調整係長兼庶務係長	足 立 真 澄
	まちづくり部	
	・まちづくり部長	近 藤 紀 子
	・まちづくり部次長兼施設管理課長	福 井 誠
	・市民活動課長	小 畠 崇 史
	・人権啓発センター所長	足 立 倫 啓
	・文化・スポーツ課長	宮 野 真 理

(片山教育長)	<p>おはようございます。寒い中、朝早くから御苦労さまです。出町委員は所用により遅れられます。定刻になりましたので、ただいまから 1 2 月の定例教育委員会を開催いたします。</p> <p>会の進行上、発言の際には必ず氏名を名乗ってから発言していただきますようお願いいたします。</p>
<b>日程第 1</b>	前回会議録の承認
(片山教育長)	<p>日程第 1、前回会議録の承認についてですが、1 1 月 2 5 日の定例教育委員会会議録の承認は、深田教育長職務代理者と出町委員にお願いいたしました。</p>
<b>日程第 2</b>	会議録署名委員の指名
(片山教育長)	<p>日程第 2、会議録署名委員の指名についてですが、本日の会議録の署名は、横山委員と安田委員にお願いいたします。</p>
<b>日程第 3</b>	教育長報告
(片山教育長)	<p>日程第 3、教育長報告に入ります。</p> <p>1 1 月 2 5 日木曜日、定例教育委員会がございました。同日にはファシリティマネジメント戦略会議ということで、市島地域複合施設建設の事業手法等についての話、青垣社会福祉協議会、青垣支所の移転計画等についての話</p>

がありました。一般質問の調整会議が夕刻にあり、教育委員会に対する質問が2本出ておりました。夜、学校給食運営協議会がございまして、3施設の課題や食器の変更等について話し合いが行われました。

26日金曜日、定期的に兵庫パルプ株式会社との情報交換会を行っています。トラックの運行等について、新設の山南中学校ができますので、そういうところについて、気を張っていろいろと配慮されていることに感心させられます。また、民間企業の接遇は、いつもきちんとできているということでも感心させられております。

28日の日曜日ですが、ドリーム・ベースボール少年少女ふれあい野球教室、中学校のチームが6チーム、少年野球チームが10チーム参加しておりましたが、若い方は御存じないかもしれませんが、私たちはスターと思われるような選手がたくさん来ておまして、村田兆治、堀内恒夫、達川、それから、新しいところでは井川慶、谷沢健一等、少年野球の子に丁寧に指導していただきました。午後は試合があったようです。

29日月曜日、臨時の校長会を開催いたしました。春日中の状況報告と綱紀肅正について指示しました。午後には兵庫県公立小中学校職員永年勤続表彰式がございまして、丹波教育事務所に行ってきました。丹波市から9名、丹波篠山市から6名、受章されました。30日火曜日、12月の議会本会議がありました。その後に議員総会がございました。

12月に入りまして2日木曜日、政策会議がありました。市長からは、コロナの3回目の接種の準備、1年の締めくくりの年、また、年末いろいろとありますので交通事故等気をつけるようにというような指示がございました。また、産業経済部から農業農村振興基本計画案、令和7年度まで示されました。丹波特有の小豆だとか栗、黒豆等のブランドの強化を示されました。農業は次世代への贈り物と目指す姿はあるが、田んぼや畑や山がほとんどの丹波市は、農業・林業教育を、例えば、学校教育にどのように組み入れていくのかということや、その必要性も強く感じました。

同日、デジタル推進本部会議がございました。また、人権施策推進本部会議も続けてございました。5日、丹（まごころ）の里の人権の集い、日曜日ですが、人権作文の表彰式、テレビでおなじみの弁護士の住田さんの講演がございまして、自己肯定感を若者たちが持っていないのが心配であるというようなことが中心のお話でございました。

7日火曜日、8日水曜日、一般質問、先ほど2本と言いましたが、渡辺議員から、山南中の机の話とか、大西議員から図書館に託児所をとというような質問が出ました。13日月曜日、本会議ですが質問はございませんでした。15日水曜日、第57回新型コロナウイルス感染症対策本部会議がありました。16日木曜日、総務文教常任委員会、付託議案審査、所管事務調査等がありまして、教育委員会は、学校の統廃合、青垣の民俗資料館の解体等について説明をいたしました。

17日金曜日、第10回小・中学校校長会と、午後には叙勲の伝達ということで、谷口正規先生に渡しに行ってきました。20日月曜日、予算決算常任委員会、議員総会がございました。本日23日、定例教育委員会、こういうような予定になっております。教育長報告は以上です。

ただいまの教育長報告につきまして、何か御質問がありましたらお願いいたします。ございませんか。

なければ、教育長報告を終わります。

#### 日程第4

#### 協議事項

- (1) 令和4年度丹波市の教育（実施計画）原案について

(片山教育長)

続きまして、日程第4、協議事項に入ります。(1)令和4年度丹波市の教育(実施計画)原案について、事務局より説明をお願いいたします。  
足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立です。それでは、令和4年度丹波市の教育(実施計画)原案についての協議前の説明をさせていただきます。  
先月の定例教育委員会において、令和4年度の各施策について概要説明をさせていただき、後に、各委員から提案や質疑等を頂きました。提案や質疑に対する回答、修正内容等については、この横書きの「令和4年度丹波市の教育(実施計画)の原案」意見書のとおりとなっております。  
また、これを反映した実施計画案については、この実施計画案の中で修正箇所等については赤字で記載をさせていただいております。  
本日は、事前に御確認を頂いているということも含めて、追加の説明はございませんが、さきに御意見を頂いた箇所への再質問であるとか、事前に御指摘のなかったところ等も含めて、質疑や御提案を頂くための2回目の協議の場とさせていただきたいと考えております。事務局からは以上です。

(片山教育長)

それでは、令和4年度丹波市の教育の修正案につきまして、協議を行います。御意見、御質問などはございますか。今質疑がない場合、また後で言うてもらうことは可能ですか。  
足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立です。今後のスケジュールに関係しますので、今日の協議等をもって、また事務局で修正すべき点等は修正して、1月の定例教育委員会では、議事という形で来年度の実施計画を挙げさせていただいて、御承認いただければ、3月の市議会に提出し、実施計画を確定させていきたいと考えております。  
ですので、今日、この場でなかったとしても、次回までにご意見など頂ければ反映するなど、次回までにやりとりも可能かとは思いますが。

(片山教育長)

ありがとうございます。よろしいでしょうか。  
では、特にないようですので、(1)令和4年度丹波市の教育(実施計画)原案について終わります。

## 日程第5

### 議事

議案第47号 丹波市立丹波布伝承館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

(片山教育長)

続きまして、日程第5、議事に入ります。議案第47号、丹波市立丹波布伝承館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、事務局より説明をお願いいたします。  
福井まちづくり部次長兼施設管理課長。

(福井まちづくり部次長兼施設管理課長)

次長兼施設管理課長の福井でございます。よろしく申し上げます。それでは、本件につきまして、提案の説明をさせていただきます。  
本規則につきましては、教育委員会規則になってございます。丹波布伝承館の条例の施行規則の一部改正ということでございます。  
本施設は、竣工当時から、隣接に道の駅あおがきがございまして、そちら

と一緒に開館をしましたが、当時は、休館日を道の駅あおがきと一緒にするというので、毎週火曜日と、年末年始については、12月27日から1月5日までの休館日で設定をされておりました。ところが、現在、道の駅につきましては、火曜日と年末年始も12月30日から1月2日ということで、休館日を変更されて営業されておまして、現在、丹波布伝承館と道の駅あおがきの年末年始の休館日が違っているという状況になっております。

現在まで推移してきましたが、このたび、文化財課が所管しております社会教育施設、歴史民俗資料館、リニューアルしました氷上水分れフィールドミュージアム、美術館、そちらの年末年始の休館と合わせるということで、12月29日から1月3日までの年末年始の休館ということで、丹波布伝承館も変更させていただきたいというものでございます。

火曜日の定休日につきましては、道の駅あおがきと合わせたということで、それについては変更する予定はございません。

したがって、年末年始の休館日につきまして、現状が12月27日から1月5日になっておりましたものを、12月29日から1月3日に変更するという内容でございます。御審議のほどよろしくお願いいたします。

(片山教育長)

それでは、委員から何か意見や御質問はございませんか。

福井まちづくり部次長兼施設管理課長。

(福井まちづくり部次長兼施設管理課長)

補足をさせていただきます。施行日につきましては、令和4年4月1日から、この規則改正を施行しまして、令和4年12月29日から令和5年の1月3日まで休みということで、この年末年始は、現状のままということでございます。補足をさせていただきます。

(片山教育長)

以上、補足説明がありました。何か質問や御意見ございませんか。

それでは、ないようですので採決いたします。

議案第47号、丹波市立丹波布伝承館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について採決いたします。

同意される委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

(片山教育長)

挙手全員。ありがとうございます。

よって、議案第47号、丹波市立丹波布伝承館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について承認いたします。

議案第48号 丹波市立学校における学校運営協議会委員の任命について

(片山教育長)

続きまして、議案第48号、丹波市立学校における学校運営協議会委員の任命について、事務局より説明をお願いいたします。

足立教育部次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長)

次長兼学校教育課長、足立でございます。それでは、5ページ、議案第48号、丹波市立学校における学校運営協議会委員の任命について御説明申し上げます。

丹波市立学校における学校運営協議会の設置に関する規則第4条1項の規定により、学校長から申出がありまして、久下小学校の学校運営協議会委員の追加の報告がございました。追加の委員につきましては、これまでも学

校支援コーディネーターとして学校運営に関わっていただいておりますが、このたび、委員として改めて入ってもらうことといたしました。学校運営協議会の推進に当たり、任命いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(片山教育長)

それでは、今の提案につきまして、委員のほうから何か御質問や意見はございませんか。

深田委員。

(深田教育長職務代理者)

深田ですが、学校支援コーディネーターを従前からやっておられたということの説明でしたが、学校運営協議会、ほかの学校も含めてですが、学校支援コーディネーターというのは、委員の中で選出されて、それが学校とのいろいろな話をしていくということで理解していますが、委員外で、学校支援コーディネーターをやっておられたという、そういう理解でいいでしょうか。

(片山教育長)

足立教育部次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長)

次長兼学校教育課長、足立でございます。昨年度も、この委員の方につきましては、コーディネーターとして関わりを持たれております。正直、学校が提出をきちんとできていなかった部分がございます、これまでも学校運営協議会の中で関わりを持っていただいておりますが、委員としての報告がなかったということをごちからからの指摘によって、12月、2学期末の学校運営協議会からは正式に委嘱状を出してというような形をとっております。申し訳ございません。

(片山教育長)

よろしいでしょうか。ほかございませんか。

ないようでしたら、採決いたします。

議案第48号、丹波市立学校における学校運営協議会委員の任命について採決いたします。

同意される委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

(片山教育長)

全員の挙手を認めます。

よって、議案第48号、丹波市立学校における学校運営協議会委員の任命について承認いたします。

## 日程第6

報告事項

### (1) 寄附採納報告

(片山教育長)

続きまして、日程第6、報告事項に入ります。(1)寄附採納報告についてお願いいたします。

足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立です。今回報告させていただきます寄附採納は3件でございます。資料は6ページから8ページとなっております。6ページでは、大路小学校に対しまして、大路小学校PTAから接続ケーブル及び掃除機を、資料7ページでは、青垣小学校に対して、丹波同友会様からタブレット用のACアダプター15台を、資料8ページでは、和田中学校に対しまして、和

田中学校PTAからデジタイマ、ショットクロック、フロアスタンドの寄附申出がありました。それぞれの寄附申出に対しまして、教育活動の一層の充実を図るため、ありがたく採納することといたしましたので、御報告申し上げます。以上です。

(片山教育長)

ただいまの報告につきまして、何か質問はございませんか。質問がなければ、寄附採納報告を終わります。

(2) 行事共催・後援等報告

(片山教育長)

続きまして、(2) 行事共催・後援等報告をお願いいたします。足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立です。行事共催・後援等の報告につきましては、資料9ページのとおり、西阪神吹奏楽連盟ほか主催の第49回兵庫県アンサンブルコンテスト西阪神地区大会を初め、全部で3件でございます。今回の報告につきましては、全てが後援の依頼となっており、2件目については、事業実施場所の変更申請でございます。それぞれ丹波市教育委員会後援等名義使用許可に関する要綱に基づき、許可条件に適合し、公的または恒例の行事であるため、専決処分により許可をしたもので、報告させていただきます。以上です。

(片山教育長)

ただいまの報告につきまして、何か質問はございませんか。質問がなければ、行事共催・後援等報告を終わります。

(3) 市島地域市立小学校統合準備委員会の進捗状況について

(片山教育長)

続きまして、(3) 市島地域市立小学校統合準備委員会の進捗状況についてお願いいたします。足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立です。それでは、資料は本日、机上に配付しております。「市島地域市立小学校統合準備委員会 第2回吉見・鴨庄・三輪地域部会 次第」が表紙になっている資料となっております。

それでは、進捗状況について御報告申し上げます。

11月4日開催の第3回統合準備委員会では、今後の議論の枠組みを協議いただき、認定こども園単位での地域部会を設置し、5校を2校、あるいは5校を3校に統合するための具体的な協議を行い、並行して、5校を1校にする協議を行うということが決定されました。これを受けまして、11月24日の第4回統合準備委員会では、吉見・鴨庄・三輪の地域部会と竹田・前山地域部会を設置し、それぞれ1回目の部会を開催いただきました。このことにつきましては、前回の定例教育委員会で御報告したとおりでございます。

その後、資料にもありますとおり、吉見・鴨庄・三輪では、12月14日に第2回地域部会が開催されました。資料はこの表紙から5ページまでということになっておりますが、協議事項の一つ目としては、次第3番目の「今後の地域部会での協議事項及びスケジュールについて」を協議いただきました。

資料4ページ、5ページがその資料となっております。大きな項目としましては、現在、吉見・鴨庄の2校での統合は令和5年4月を目指すということになっておりますが、継続して三輪小学校の統合時期について協議をす

ること、そして、先ほど言った2校の統合に向けて、通学支援、コミュニティ・スクール、PTA関係、閉校式、アフタースクールの関係等について、令和5年4月の開校を目指した協議をしていくということが確認されました。

次に、次第4番にあります吉見小学校及び鴨庄小学校の統合後における校名・校歌・校章について協議をいただきました。令和5年の統合を実現する上では、校名の変更は難しいという意見が多くありましたが、鴨庄地域としては、地域の意見を聞き、最終的に判断をしていきたいという御意見がございました。そういったことから、結論は、この12月14日での部会では持ち越しとなりました。地域で意見を再度、集約されることになっております。次回の地域部会は、年明け1月24日月曜日の開催となっております。

続いて、竹田・前山の部会です。資料は6ページからとなっております。この竹田・前山の部会は、昨晚、12月22日に第2回の地域部会が開催されました。協議事項としては、統合の時期及び場所について、両小学校PTA及び認定こども園あいいくの丘保護者会が実施されたアンケート、2校の施設の比較、児童数の推移を参考資料に協議をされました。

統合時期については、最終結論は得られませんでした。令和5年の統合は準備期間の関係から難しいのではという意見が多くあり、令和6年を目指したスケジュール等について、次回協議することになりました。

事務局としては、令和6年の統合であれば、遅くとも令和4年7月までには統合場所までの決定をしていただきたいと希望はお伝えしたところです。次回の地域部会は、1月21日金曜日に、竹田小学校で開催されることになりました。

以上、簡単ですが、市島地域市立小学校統合準備委員会の進捗状況についての報告とさせていただきます。

(片山教育長)

ただいまの報告につきまして、2部会ありましたが、何か質問はございませんか。

深田委員。

(深田教育長職務代理者)

今の進捗状況の中で、三輪小学校、1校だけ残って、もちろん、令和6年度ですね、竹田も前山も単独校として残っていくということですが、この中で、例えば、三輪小学校が前の進捗状況と、吉見・鴨庄と同じような3校の中での統合を目指している中で、お話しに入ってきたと思いますが、まず一つ目は、三輪小学校が令和5年度を目指して統合にはならないという結論に至っていると思うのですが、そこの地域の合理的な意見、思い、小学生の人数的には、長期的に見ると、それは減少ないですが、ここ数年では、そんなに減少しないということもあって、何か統合について足踏み状態といえますか、三輪でいいという、そんな状況なのか、あるいは、統合に前向きなのか、その辺の状況のお話をいただければというのがまず一つ。

それから、前山と竹田小学校について、令和5年度は少ししんどくて、6年度からというお話でしたが、事務局としても、それは、いろんなことを鑑みて、可能というよりも了承の方向で向いているということですが、令和5年でなぜいけないのか。一方、統合を5年でしているというところで、5年で本当にしんどいという、統合に向けて大変だという、その辺の理由が分かればお聞かせ願いたいです。この2点、お願いいたします。

(片山教育長)

足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立です。1点目、三輪地区というか、三輪小学校区の思

いというところですが、まず、統合に向けての協議には、引き続き加わりたいということは前回の地域部会でも言われています。大きな流れの中で、5校を2校、あるいは5校を3校にする先に、5校を1校にする協議があるということがあるので、今は統合に加わらなくてもいい。引き続き統合協議には、いわゆる1校協議が先に見えているので、三輪としても今回は2校統合も、許容しているという言い方がどうなのか分かりませんが、致し方がないというように思われているというところもあろうかと思えます。物理的などころでいいますと、三輪小学校を加えると、吉見小学校のキャパでは、今、全てが入れない。それが改修を加えても、数年の後に全て解消されてしまうということも御理解いただいた上で、施設改修が過大な投資になってもいけないだろうというような意見も出ております。

そういったところから、今回、吉見・鴨庄の2校の統合を三輪も含めた3地域で協議をする、その情報は、三輪も全て共有するというところで行かれて、来年度のうちにその1校協議、あるいは、吉見・鴨庄の中へ入る統合時期の協議の結論を得ていくというようなことでの、三輪地区はスタンスでおられるということで、前回も三輪の統合はどうかという意見は出ておりました。そういったところで、現時点では、そういうスタンスでおられるというところでは。

前山と竹田ですが、先ほど申し上げました令和5年は難しいというのは、鴨庄・吉見は、今、令和5年を吉見小学校でという場所まで決定をさせて行っている、そこへ向けたスケジュールが組んでいるわけですが、竹田・前山も、資料の中で説明しませんでした、アンケートをとられた中で、早期の統合を望まれているというのがありますが、その時期と場所の問題、特に場所について協議に入れていないので、そこまで詰めていくとなると、やはり準備期間が足りないのかなということで、昨日の時点では、令和6年を目指していくとなっています。

こちらとしても、早くから、令和5年4月を目指していただくのであれば、年内に統合場所まで決めていただきたいというところは伝えておりましたが、そこまでの協議が整っていないという状況から、令和5年は難しいという判断になっているところでは。以上です。

(片山教育長)

深田委員。

(深田教育長職務代理者)

ありがとうございます。まず、1点目の三輪小学校、今後、統合に向けて協議に入っていくという、ただ、今、物理的などころで、施設の事を第一義的にあるというようなことをおっしゃいましたが、三輪がもし統合する場合においても、教育委員会としての視点として、新しい校舎を建てていくのか、あるいは、拡張工事をしながら、吉見を拠点として、例えばですが、そういうところを考えていっているのか。そうすると、新しいなり改修するなりすると、やはり四、五年ではしんどいところが、これからの計画で出てくるかと思えます。

その辺のスケジュールを踏みながら三輪のほうでは、一生懸命考えていただいていると思いますが、さらに教育委員会としてサポートしながら、何とかそごができないような期間を、人々の思いも、そごができないような形でお話を煮詰めていただいたらありがたいです。また、竹田と前山については、場所の選定という話がありましたが、令和6年を念頭に置いていけば、どちらかに動くという頭があると思えます。

先ほどの三輪の例ではないですが、新しい場所、校舎というようなことを考えていくと、さらに先へ延びていってしまう。その辺りも確認し、竹田・前山の地域の方々が、どちらに動くという、そういう見え方がするのですけ



どね。その中で議論をしているのかどうかというのを、お話しの中で、教育委員会としてサポートしなければならないと、お話を聞いていて思ったところでは。

最終的には、5校を1校という、本当に長期的な中で考えれば、これこそ新しい校舎を建設する云々というのは出てくるかもしれません。そんなところも長期的に考えながら、この準備委員会を進めていきますようお願いいたします。

(片山教育長)

足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立です。ありがとうございます。三輪の件につきましては、先ほどの校舎のキャパの問題は、それでお伝えした上での判断ですが、かといって、いつまでも、ということにはいきませんので、一定、キャパの問題を解消されるのは、令和8年であったり9年というのも出て、児童数の推移からすると見えてきております。ですので、その辺は念頭に置いて協議もしておりますし、あるいは、一気に1校への協議ということも考えておられると思います。ですので、鴨庄と吉見が統合して、これで終わりということだけはないようにしてほしいという思いを強く持っておられますので、引き続き統合協議はしていかなければならないというところが、3校の協議です。

前山と竹田につきましても、将来的には1校のことが、これも共通認識ということでは、やはり現用の施設を活用してということは念頭に置いて協議をしてもらっていると思っておりますし、昨晚も、そういう意味で、前山小学校で協議の後に校舎見学をしていただいて、今回は竹田小学校でということ、現地も見えていただきながら、場所の協議も並行していくことにしていますので、まずはその2校統合という場合は、どちらかの校舎を活用していくというところでの議論を進めております。

(片山教育長)

深田委員。

(深田教育長職務代理者)

最後に、この統合について、日本各地で統廃合が進んでいますが、その統廃合が進む中で、小中一貫、あるいは、東京都立なんかでは小中高の一貫校ができるというような、本当に新しい動きがどんどん進んでいるという、そんな流れの中で、今の市島地区も、もちろん、ほかの丹波地区も、ほかの地域もそうですが、教育委員会として、改めて、この統廃合について、基本計画には、ある程度の思いは出ていますが、もう少し練っていく必要があるのではないかとはいくつ個人に思っています。その辺りをこの山南市立の中学校統合とか、市島町の統合とかを踏まえて、改めて考えていくことが必要かと思っております。事務局の知恵を出していただいて、また、時代の趨勢に乗り遅れるというわけではないですが、児童数の減少、少子高齢化の中で、どのような教育が適切かどうかというようなことを改めて考えるところに来ていると思っております。一度、検討いただけたらありがたいと思っております。

(片山教育長)

よろしいか。私からお答えいたします。今、深田委員のおっしゃっていた内容につきましては、今日的課題として非常に重要な視点かと常に感じております。そこで、おっしゃったように、今、何とか市島地域ですが、令和5年度には山南中学校がまず統合しますが、青垣は終わりました。全体を見詰めながら、どうあるべきか、というようなことは、今日的課題といたしましたが、国の動向だとか、全国的な状況だとか、子供がどんなようなことを考えているのかとか、社会のニーズは何だとかいうようなことを、総合的

に判断した上で、考えていきたいと思っておりますので、またお示しする機会が必ずあると思っておりますので、お互い知恵を出し合って計画していきたいと思っておりますので、どうぞ御了承いただきたいと思っております。ありがとうございました。

ほかございませんか。

それでは、質問がないようでしたら、市島地域市立小学校統合準備委員会の進捗状況について終わります。

#### (4) 令和4年度教育委員会関係当初予算について

(片山教育長)

続きまして、(4) 令和4年度教育委員会関係当初予算についてお願いいたします。

藤原教育部長。

(藤原教育部長)

教育部長、藤原でございます。お手元の資料の「令和4年度当初予算に係る教育部の部局方針」という表裏の資料を見ていただきたいと思っております。

基本目標として、「地域に誇りを持ち 自分たちの未来を創る 人づくり～一人ひとりが未来の創り手に～」ということで、丹波市の教育の中にもある言葉を挙げさせていただいております。

人口減少や超少子高齢化、グローバル化やICTによる技術革新が急速に進み、これから子供たちが生きる時代は“予測困難で正解がない時代”となってまいります。そのような中で、令和元年度策定の第2次丹波市教育振興基本計画の3年目ということで、「ICT、プログラミング教育」「外国語教育」「主体的・対話的で深い学び」をキーワードに、昨年度導入をされました「児童生徒1人1台のタブレット端末」を最大限にいかしていくとともに、氷上回廊水分れフィールドミュージアムを初め、フィールドをいかした教育や新型コロナウイルス対策をしっかりと視野に入れながら、各教育施策を進めてまいりたいと思っております。

その中で、予算的なこと、金額は挙げておりませんが、一つ目として、「学力保障等に係る教育環境の整備」ということで、主なソフト事業といたしまして、一つ目に、教科学習に1人1台端末を効果的に活用した主体的・協働的な学びの充実ということで、タブレットドリル、スクールライフノートの日常活用、SKYMENU、及びG-Suiteの授業活用、端末の持ち帰り、家庭との連携、プログラミング教育の実施、また、デジタル採点システムの導入でございます。

二つ目として、コミュニティ・スクールの充実ということで、活動推進員の活用と増員を図ってまいります。

三つ目、安心して学べる学校づくり・教育的支援が必要な子供の学びの充実ということで、教育支援センターやいじめ報告・相談アプリのSTOP i tなどの各種相談窓口の活用、それから、教育支援センターへ臨床心理士を配置するという方向で、現在進めております。また、人権意識の高揚にも努めてまいります。

四つ目として、フィールドをいかした教育の推進ということで、ふるさと教育展示会の実施、教育ガイド等の活用、竜学に徳島県の勝浦町へキャリア教育における中高の実践交流を挙げております。

五つ目として、外国語指導の充実ということで、英検の受検料の助成を引き続き行ってまいります。またネットdeイングリッシュにおける少人数グループの交流を推進します。

六つ目として、幼児教育・保育の充実ということで、保育者の資質及び専門性の向上・幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図ってまいります。

(2)の主なハード事業ということで挙げております。

一つ目として、令和5年4月開校に向けて、新しい山南中学校の建設工事を完了させてまいります。既に発注をしている、今年度発注している工事に加えまして、駐輪場の整備工事がございます。また、バスロータリーのひさしの設置工事、校内備品の整備などを図ってまいります。

二つ目として、小中学校の施設の整備工事ということで、崇広小学校の総合遊具の設置などがございます。また、放送設備の工事、トイレの洋式化の改修についても進めてまいります。

三つ目として、学校給食センターの設備更新ということで、柏原・氷上のセンターで第2期の厨房機器更新の購入(債務負担)、春日学校給食センター厨房機器の更新の購入、青垣学校給食センターの生ごみ処理機更新工事、学校給食センター食器の更新ということで、柏原・氷上と青垣で、強化磁器製をPEN樹脂製に変更してまいります。春日学校給食センターの配食校については、令和5年に更新の予定としているものでございます。

裏面を御覧ください。

三つ目、その他ということで、地域から考える学びの未来会議の開催をしてまいります。

二つ目として、現在の山南中学校、和田中学校の閉校記念の行事、閉校記念誌の発行の支援をしてまいります。

三つ目として、今も説明ありましたが、先ほどもありましたが、市島地域の市立小学校の統合関係でございます。吉見・鴨庄の令和5年度の統合に向けての諸準備をしてまいります。竹田小・前山小の統合時期・場所の決定に向けた協議を進めてまいります。上記に並行して5校を1校への統合協議も併せて進めてまいります。

四つ目として、通学路等の安全対策ということで、通学路の安全プログラムの再点検、また、危険箇所の改善への取組を行ってまいります。

五つ目として、本気の働き方改革の継続ということで、教職員のことでございます。スクールサポートスタッフ、これは消毒の部分と改善の部分も含めています。部活動検討委員会、地域ボランティアスタッフでございます。

六つ目として、情報発信の充実ということで、タイムリーな情報提供ということで、LINE等を活用してまいります。教育委員会の広報の内容についても、見直しを図ってまいりたいと思っております。

大きな二つ目、「歴史文化遺産の保存活用と美術館・図書館」でございます。

一つ目でございます。地域の歴史に触れる機会の提供と歴史民俗資料館の利用促進ということで、歴史講座の開催、「兵庫旧5国の歴史」を概観する資料の展示、彫物師・中井権次に関する企画展の開催、各種イベントに地域歴史を紹介するブースの出展をしてまいりたいと思います。

二つ目として、水分れフィールドミュージアムの魅力的な運営ということで、企画展やワークショップを実施し、年間3万人の入館者数を指すとともに、市内博物館を初めとする社会教育施設との相互連携や各館展示・イベントの情報を共有することによる利活用機運の高揚を図ってまいります。

三つ目として、地域資源活用による学校教育との連携ということで、地域の豊かな教育資源を活用した博学連携ということ、オンライン授業に必要な機器などの導入を図ってまいります。いきものふれあいの里と氷上西高校が連携し、ふるさとに愛着や誇りを持てる人材の育成ということで、高校生による展示物の製作や博物館運営に関わっていきます。

四つ目として、植野記念美術館、質の高い魅力ある展覧会の企画ということで、「現代日本画 親子の系譜展」、「きかんしゃトーマス展」、「村田エミコ展」、「美人画の雪月花展」ほかの展示をしてまいります。

学校教育や図書館との連携ということで、児童生徒の美術鑑賞教育の利用促進や地域学習への協力・支援ということ、きかんしゃトーマス展や村田エミコ展会期中の図書館での資料の展示や美術館での絵本の読み聞かせを実施してまいります。また、地域に開かれた館運営ということで、丹波市ゆかりの作家展やアートコンペティション入選作品展の開催もしております。

最後に、中央図書館でございます。多様な図書館サービスの提供ということで、マイナンバーカードの利用者カードとしての活用推進をしております。また、市民プラザ等と連携したおはなし会の開催、美術館の企画展に合わせた図書展示、図書館利用のきっかけづくりということで、福袋企画でありますとかリサイクル市の継続をしております。

市民協働による図書館運営及び子ども読書活動の推進、読み聞かせボランティアグループ等との連携による市民と一体となった運営、図書館サポーター活動の柔軟な対応による活動の拡充を図ってまいります。

市民に広く家読（うちどく）を周知するきっかけづくりということで、子ども司書養成講座の継続と子ども司書認定者の活動内容の充実などを図ってまいりたいというふうに思っております。

以上、非常に簡単ですが、教育部の部局方針の説明とさせていただきます。以上です。

(片山教育長)

ただいまの報告につきまして、何か質問はございませんか。  
深田委員、お願いします。

(深田教育長職務代理者)

深田ですが、御説明いただきました来年度の予算にかかる方針ですね、新しい予算がどれに該当するのかというのを端的に言っていただいた上で、改めて質問したいと思います。お願いします。

(片山教育長)

藤原教育部長。

(藤原教育部長)

教育部長、藤原でございます。新しいかどうか難しいところがありますが、例えば、ソフト事業の（１）のところのライフイズテックレッスンだとか、少し形が変わった形で導入するということ、デジタル採点システムについて今までしていたものを拡充していくという面がございます。

③の教育支援センターへの臨床心理士の配置、今までは配置はなかったですが、支援センターへ配置して支援していきたいと思っております。

ハード事業では、これはもちろん、新規というのが継続事業の中で行いますが、駐輪場の整備工事、バスロータリーひさしの設置工事などがありますし、新しい備品を買っていくというものでございます。

ハード事業については、あとの点についても、全て更新とかしていくものでございますので、新たなものというように理解していただいたらと思います。

裏面に参りまして、先ほども説明をしました市島地域の市立中学の関係、あとは、これまでであったものを拡充するのが多いかと思えます。

歴史文化遺産の保存活用と美術館・図書館の関係でございますが、（１）のところですが、兵庫旧５国の歴史を概観する資料展示なんかは初めて行う部分でございます。

博学連携につきましては、現在もしているものの拡充というような形になりますし、美術館の企画展については、新たな五つぐらいでしたか、展示会がありますので、その関係を書かせていただいているというものでございます。

簡単ですが、以上でございます。あと必要でしたら、各担当課長からお伺

いをさせていただきたいと思います。

(片山教育長)

よろしいでしょうか。深田委員。

(深田教育長職務代理者)

ありがとうございます。子供たちを中心にして、学校のソフト事業をしていただいて、今、進んでいる1人1台の端末を中心にしたさらなる予算を計上していくということは理解できます。

その周りの環境として、人的な配置も随分と考えていただいておりますが、一つは、臨床心理士の配置、それから、学校では役立っていると聞いていますが、スクールサポートスタッフの継続な配置と思いますが、この中で、一つお聞きしますが、地域ボランティアスタッフ、この文面からいくと、予算を計上してこのスタッフを確保するというのでしょうか、まず、このボランティアスタッフというのは、どういう役割をしていくことで考えておられるのか、まず1点お願いいたします。

また、主なソフト事業と幼児教育・保育の充実の中で、保育者のためにいろいろと、ソフト面の充実だろうと思いますが、人的なところでお尋ねしますが、保育士の確保はもう教育委員会では扱ってない、福祉部局に行っているのだろうと思いますが、幼稚園教諭も含めて保育士の確保、それから教員ですね。これも足りないといって久しいですが、ここ一、二年、すごく激しくなってきましたが、そういう確保のために、どのように市全体として取り組んでいくのか。

なぜこんなことを申し上げるかということ、昨日、ある新聞に丹波篠山市教委が篠山市内の高校へ行きませんかというようなチラシを配っていると。市教委から、市内の学校へ行きませんかというのを応援される。それはそれでいいと思いますが、どういう筋道の中でそういうことをやっておられるのか。

丹波市の場合は、保育士を確保したり、先生方を確保したり、あるいは、こういった子供たちの入っている学校の人的なところを確保していく、それは喫緊の課題であります。そのことのために、どうやって人を育てていくのか、人材育成をしていくのかということ、例えば、保育士が足りないときに、子育て支援課がこちらにあったときに、あちこちでハローワークを通じて人的確保に努めていただいた。でも、いろんな形があっても、丹波で育った子がこういう仕事につきたいと思うような、長期的に見て、感情になっていくにはどうしたらいいだろうか、なかなか難しい問題ですが、市を挙げて、学校へ関わりたい、あるいは、子供たちに関わりたいというような人材を確保する、何か長期的な手だてを考えていただければありがたいと思っています。

要は、教育委員会の仕事、市長部局の仕事、というのではなく、協議しながら子供たちを育てる中で、地元で働きたい、ここで働きたい、その中で保育士が確保できる、教員が確保できる、あるいは、ほかの人材が確保できる、そんな環境を何とか作っていただければありがたいです。その見通しといたしますか、事務局等でどのように思っておられるのか、ありましたら、教育長も含めてですが、お聞かせ願えたらと思います。

(片山教育長)

藤原教育部長。

(藤原教育部長)

まず、最後に言われた保育、簡単にいえば、保育教諭の確保ということに関して、教育部局だけではなく、教育委員会がどのように関わっていくのかということだと思います。

教育部に子育て支援課があったときには、教育委員会として、市として取り組んできたというようなことでございますが、市長部局に行ったというこ

との中で、子育て支援課がそのまま行っておりますので、何ら変化はないのが実情でございます。市長部局として、保育者の確保をハローワーク等も含めて、各養成校にも行かれて、引き続き募集というか、丹波市に来てほしいという手だてというのはされていると聞いております。

ただ、市長部局に行ってから、教育委員会が実際に職員採用といいますか、その関係で強く関わっているのかということから言いますと、それはないという状況であります。この間も少し話を聞いておりますと、保育教諭がなかなか集まらないと聞いておりますので、今後、市長部局と連携しながら、そういうことについても情報交換しながら進めていかなければならないなどいうことは、強く感じているところでございます。人を集めるというのがなかなか難しい、いわゆる賃金が上がれば人が来るというものでもないというのが現在の状況のようですので、その辺り、働きがいのある職場にするというような形を何とか作っていけないと感じているところでございますが、何らかの手だてを打っていくことについて、市長部局と協力しながら進めていかなければならないとは感じておるところでございます。

もう一つは、働き方改革の地域ボランティアスタッフの件だと思います。次長からお答えさせていただきます。

(片山教育長)

足立教育部次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長)

次長兼学校教育課長、足立でございます。地域ボランティアスタッフの予算面については、ふるさと学の中でしているところでございます。これはこれまでも同様です。ただ、深田委員から御指摘あったように、ボランティアスタッフという名前の中には、学校に関わっていただいた方については、ふるさと学で一定額を出していますが、もうそんなお金はよいと、子供たちに関わりたいというようなことで、拒まれる方もたくさんいらっしゃいます。いわゆる無償での教育への子供への関わりとしていただいておりますので、それが特段良いか、本人の御意向でされている部分がありますので、そういう部分を広げていきたい思いもあります。それと、そういう方、多くの方に関わっていただくことで、教育をさらに進めていきたい思いがあって、ここの中には明記をさせていただいております。以上でございます。

(片山教育長)

深田委員。

(深田教育長職務代理者)

深田です。ありがとうございます。いろいろお金を使う、確保するために、いろいろなところの課題は出てきて、それに対して予算を確保していくと、それはいいと思いますし、頑張っていただければありがたいと思います。

もう一つ、今日の新聞に、丹波篠山市の教育委員会が保育園の学びを全てアップして、皆さんに見ていただけるようにしていると。これは丹波篠山市に限らず、多分、あちこちの市町でもそういうことをやっていると思います。今の地域ボランティアスタッフのこともそうですが、例えば、学校運営協議会がこういうことをやっていますよというのを、何か整理してアップして、皆さんの参考になるような、保育もそうですが、そういう、何か皆さんが研修できる、参考にできる、そういう資料をまとめて、そして、活用できるような、これは今、学校運営協議会が保育所のことを言っておりますが、ほかも含めて全般的に、データベースというか、リソースといいますか、そういうようなものをいずれの分野でも作っていただいたらいいなど、今日の新聞報道を見て思っていたのですが、また考えていただければ、ありがたいと思います。

(片山教育長)

足立教育部次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長)

次長兼学校教育課長、足立でございます。ありがとうございます。いろいろと御提言をいただいておりますので、私の考えも含めてお話をさせていただきます。

最後にありましたコミスク、学校運営協議会の資料などを閲覧できたり、情報共有できたりするような形というのが、2月に連絡会を実施、1月に連絡会をする予定にはしておりますが、そういう中で、好事例というのを紹介し合うというのは大事だと思っておりますので、ぜひともそういうようなことを考えながら、来年度、取り組んでまいりたいと思っております。

深田委員から総じて話の中に、私どもで心の中に抜けていたというように感じたことが1点ございます。丹波篠山の高校の例を出されましたが、今年度から準備を始めていますが、キャリア教育の中で、中学生と高校生が、いわゆるふるさと学なり、アントレプレナーシップなり、キャリア教育の中で交流する場を作っていきたいと思っております。多くの予算を計上するわけではないので、ここの中には明記をしていないですが、丹波市の教育の中では、新たな取組として考えておりますので、その辺りも取組を大事にしていながら、取り組んでまいりたいと思っております。

それと、深田委員のお話の中は、市長が言われている丹波市の中に一度出ても帰ってこいよと言われている、そういう施策にも通じる部分があるかと思っておりますので、学校教育課としても、帰ってこいよという中で、小学校、中学校の教育として何ができるのかという視点で考えていきたいと思っております。私からは以上でございます。

(片山教育長)

よろしいでしょうか。ほかございませんか。

横山委員。

(横山委員)

教育委員の横山です。今の関連で、来年度の予算ということではないかもしれないですが、例えば丹波篠山市だと、いろいろなNPO等とか、子供の教育に関わる多様な参画が非常にあって、若い方々が関わりを持つような取組が少しずつ増えていると感じています。先ほど地域のボランティアの方が、報酬は要らないというような話がありましたが、もちろん、そういう方がいるというのは非常に重要なことだと思いますが、これからの時代、そういった方々というのは恐らく減ってくる。そういった中で、特に、そういった方々は、それはそれで参画していただきたいですが、もう少し若い力とかが丹波市の教育の魅力をサポートしていただくようなこととか、今後の議論だと思いますが、この場でしっかり議論をして、施策に反映するというのが、本来、教育委員会の位置づけだと思いますので、いろいろなセーフティーネットがこれから必要かと思っております。それはやはり、コロナという予測不能なことが発生して、恐らく、いろいろな予測不能なことが現実起こっている中で、今までの考え方だけで、子供たちの学びを本当にサポートできるのかというのがあります。

特に、退職者が非常に増加して、恐らく40代の先生方、教員が少ない、そういったアンバランスな教員の状況になっていったときに、若い先生方だけで本当に教育の保障というのが、少し不安というか、今後、そういったものへの対応というのが十分ではないのではないかという気がしてまして、その辺りもちょっと今後議論、前回、深田委員から少しあったと思っておりますが、その辺りの議論が全くこの場でなくて、少しその辺りも議論を活発化させていかないと、退職者がどんどん進んでいってしまうところもありまして、ある程度、そういった移行する期間というのは、不足するパワーというのがあ

るかと思しますので、例えば、そういう退職している先生方がNPOを作ってサポートするとかというのでも、もちろんいいかと思いますが、何らかセーフティーネットというのがないと本気の働き方改革の、この「本気」というのがどこを指して、何がどう本気なのか、働き方改革、本気と本気じゃないのがあるのか、いろいろ思ってしまうので、これの意図がいまひとつ、この資料だけでは読み取れなかったもので、もし本気のものがあるなら、そのぐらい一歩踏み込んだ、もちろん、来年度の予算ということでもなくていいと思いますが、今後、もう少し働き方改革、本当に支えられるのか不安がありますので、あと、議論がなかなかないというのが非常に不安と思っていますので、今後、丹波篠山市の取組一つとっても、非常にいろんな活発な話があるので、近隣でもっといろいろな取組があるのではないかと思いますので、そういったものを学びながら、検討していくべきではないかと思えます。意見です。以上です。

(片山教育長)

先ほどの深田委員の話も横山委員の話も、似たようなところがありますが、これからどうなのかという話ですが、丹波篠山市の例は、新聞報道があるということですが、私が感じているなかでは、できていないことが丹波篠山市のほうが多くあるのではないかという思いを持っています。

既に丹波市の場合には、今おっしゃったようなことを含めて、やってきているのがあるからあえて出ないのではないかと。私は6月からで、まだ全部が分からないですが、どうも高校の話にしても、丹波篠山市内の高校へ行けというような話は、この前、県の教育委員会でまさにそういうことであって、柏原高校と鳳鳴高校の定員割れの状況を見ても、全く違いまして、丹波篠山市はひどい状況になっていますので、そういった部分があるのではないかと思っています。

だからといって丹波市が全てできているというわけではないですが、若干、そういった報道等については、できていない部分があるから、何とか頑張ろうとしているところがいろいろあるのではないかと思っています。

先ほどの教育の中身のこともそうですが、人のこともそうだと思いますが、現に小学校、中学校の今の会計年度で入っている先生方等もおられますが、比較的若い先生ばかりではなく、バランスをとりながら配置しておりまして、元気な方で年齢の高い方は70歳以上を超えておられる方もありますし、そういったところもバランスをとりながら配置しているようなところもございます。

ただ、おっしゃるように、数年前から団塊の世代が辞めたときにいなくなるという、県全体のグラフを見ても、非常に偏りがあるので、採用もいろいろ考えて、県もやってきているということなので、今回、私が学校長といろいろ面談した中で、アンバランスな学校は、そういったところであったりするので、そういったところは、また今後、是正していきたいと思っております。

また、これからやらなければならないことにつきましては、先ほど教育長報告の中でも言いましたが、農業プランでは、特徴として、丹波市にあるのは、田んぼと畑と山だと。簡単に言うと、そういったところに何でメスを入れないのかと思いますし、持続可能とか予測不可能とかいうような言葉がよく出てきますが、いわゆるSDGsの発想の中でやっていけるようなことをやっていかないと駄目だと。それは、先ほどの統合の話と全く一緒であって、例えば、市島の場合だったら有機農業をいろいろやっているというようなところの特徴を出すようなことだとか、それから、小中高の連携にいたしましても、丹波市の場合には柏原高校と氷上高校と西校という特徴ある高校が三つもございますので、それに特別支援学校もありますので、そういった特徴



をいかにさせることは、県と協議しながら、いろいろと新しいことに取り組めるのではないかと考えています。

例えば、ソフトのところに書いてあるタブレットやプログラミングの教育についても、これからどんどんやっていかななくてはならないですが、外国の使い方と、このタブレットが、日本の使い方が全く違うのではないかという話をしております、というのは、日本の場合には、タブレットを渡したら、ゲームばかりすると、どっちかと言うと。外国の場合には、きっちりと教材として使っているというような違いが鮮明に出ている話もありました。そういったところも、これから丹波市内では、きちんとした使い方で行っていくような教育を展開していく必要があるのではないかと。保護者に、こういう使い方させてくれとかいうことだけではなく、本当に有効な使い方がどうなのかということを実際に協議していきたいと考えております。一遍にはなかなかできないと思います。

認定こども園の話にいたしましても、この場で言ったかもしれませんが、現在、保育士不足等につきましては、市長部局の話になっておりますので、まずは教育委員会に戻していこうと考えております。アフタースクールとか、そういったこともいろいろな課題があるということも存じ上げておりますので、一遍にはできませんが、少しずつ委員の皆さん方の意見を参考にしながら、一步でも前へ進める、また、その中で、かつ、特徴ある形のものを作っていきたいと、私自身の意見ですが感じておりますので、今後ともまたいろんな御意見いただいたらと思います。

深田委員。

(深田教育長職務代理者)

教育長から、ありがとうございます。まさにそのとおりで、隣の市のことを先ほどから言っていますが、確かに教育長おっしゃったような点が、大きく俯瞰しても、丹波市のほうが、いろいろと取り組んでいるというようなことは、よくよく分かっているところです。その中で、他山の石じゃないですが、対岸の火事じゃないですが、ほかを見て自分たちの足元を見ていくという、そういう作業も必要かと思えます。

要は、もし丹波市の子供たちが、この丹波市に本当に魅力的だと、今住んでいるところが好きだと、それをより強く、この地域に愛着を持つためにどうしたらいいかというようなために、尽力していただいたらありがたいと思っています。

その中で、子供たちがどう育っていくか、もう一度、それぞれで考えていくという作業が必要かと、個人的に思っているところです。

(片山教育長)

全く同感でございます、いつも教育委員会の中には、まちづくり部の方に来ていただいておりますが、地域とともに育てていかないといけないと痛切に感じておりますので、まちづくり部との連携も、例えば、自治協議会、自治会等の連携も非常に大事なことではないかと。地域に関わろうとしておられる方が非常に多い丹波市でございますので、そうしたことも有効に展開していけるのではないかと考えております。

ほか、深田委員。

(深田教育長職務代理者)

予算の議論の中で、例えば、こういうのはどうかというのを、一つ一つ見ながら、それぞれの部課で考えていただいたらと思いますが、裏面に歴史文化遺産の保存活用と美術館・図書館ということでありますが、例えば、今年の丹波市の目玉として、氷上回廊水切れフィールドミュージアムだろうと思います。ふしぎ発見でも全国放送されて、あの施設がどんなのだろうって、みんな見に来ています。ただ、その振り返りができているかどうか。さら

に集客を考えておられるようですが、それをどう持っていこうとしているのかというようなことです。

私の個人的な考えですが、例えば1月からミュージアムで毎週のように何かイベントなり集客するための行事を組んでおられます。その中で思いますが、例えば8日の餅つき大会、これって何だろうかと、ふと思います。ミュージアムと餅つき大会。餅つき大会いえば、自治会や協議会でやっていけばいいじゃないか。それは何か、外から来る人のために餅つきという日本の文化を見ていただくのかどうか。その辺のところ、表記だけでは分からないですが、要は、この水分れミュージアムが来年、再来年、どうやって先に進んでいって、このミュージアムを維持していくのかというようなことが見えない。

できたらですが、この教育委員会の中に、今年が終わるまでに、水分れミュージアムの皆さんには業務の多い中で、なかなか大変かと思いますが、自己評価して、私たちがそれを一度協議させていただいて、こんなのはどうですかというような議論ができたらいいと思いますので、今の教育長の話ではないですが、足元をもう一回見つめていきながら、さらにいいものを作っていくということ、そんな作業を、時間もかかりますが、やっていただけたらありがたいと思います。

今は水分れミュージアムだけに関してですが、例えば、水分れミュージアムがいきものふれあいの里と住み分けをどうするのか。いきものふれあいの里は、先ほど予算では、西校との連携の中でやっていくが、何かイベントが似たようなことが多いのではないかと、そんなこともふと思いますので、その辺、皆さんと協議しながら進めていただけたらありがたいと個人的に思うところです。以上です。

(片山教育長)

出町委員、御苦労さまでございました。今、日程第6の(4)のところをやっておりますので、よろしく願いいたします。

山内課長、今のところ、何かございますか。

(山内文化財課長)

文化財課長、山内でございます。先ほど深田委員から、水分れフィールドミュージアム、3万人に向けて今年度ネット等を駆使しながら事業展開していますが、その振り返り、これからどう持っていこうとしているのかという辺りの御意見を頂いたかと思えます。

おっしゃるとおり、こういった検証というのはしていかないといけない、今後3万人の入場を維持していくためにも、そういったことについては必要であるかという認識をいたしております。そのような中で、今年度については3万人を達成したいというようなことで、様々なイベントを打ち出していく中で集客をしていきたい、注目を浴びていきたいというようなことで、メディアやSNS等を使いながら、宣伝等をさせていただいたところでございます。

先ほど頂いた意見等も踏まえまして、今後、また持ち帰らせていただいて、施設の職員、文化財課の中でも協議を進めながら検証を進めていってまいりたいと思います。以上でございます。

(片山教育長)

それでは、ほかにもございませんか。

横山委員。

(横山委員)

先ほどの件は、私も重々、承知しておりますが、そうなるから慌ててやってもというところがあるので、学ぶべきところは学んだらいいというところを感じております。

あと、2の歴史文化等のところで、民俗資料館のところでは兵庫旧5国の歴史等とか、植野記念美術館では企画の内容とかが盛り込まれて書かれています。今、話題の野外のほうには、魅力的な企画展という表記しかなくて、来年度、一体何をするのかという、恐らく構想はあるかと思いますが、その辺りが書かれていないので、去年とほぼ一緒のことが書かれてあって、開館の次の年というところの特徴が分からない状況なので、この辺り詳しく教えていただけたらと思います。まず、その点お願いします。

(片山教育長)

山内文化財課長。

(山内文化財課長)

文化財課長、山内でございます。先ほどは横山委員のほうから、水分けフィールドミュージアムの魅力的な企画、ワークショップということで、具体的な内容が書かれていないということで御質問があったかと思えます。こちらの来年の企画展の内容につきまして、施設等と協議をさせていただいているような状況で、春については丹波市の魅力のある産業展というのを内部の職員の中でやっていくということは協議しているところでございます。夏、秋の内容については、伊丹昆虫館、箕面昆虫館等との連携ということで、企画の内容については、学芸員等と協議している状況でございまして、現時点については、詳しい内容については、御報告できるというような段階ではない状況でございます。

イベントの内容については、今年度、様々な状況でイベントをさせていただいております。来年度についても、同じような形で丹波の魅力を発信できるようなイベントを行っていきたいと考えているところでございます。以上でございます。

(横山委員)

教育委員、横山です。ありがとうございます。3万人という表記が特出しされ続けるとするのは、かなり厳しいと。開館のときといろいろ違ってくるかと思えますが、一番は、丹波の魅力をきちんと発信するというのと、それを教育にいかしていくというところが一番重要なところで、どうしても数値が必要だとは思いますが、正直、教育委員会としては、数値というより中身だと思しますので、2年目というところで、どういう戦略なのかというところですね。

先ほど深田職務代理者から提案があったように、2年目は本当に大変だと思いますので、いろいろな知恵を出し合うような機会とか議論とか、そういったものがあると、学芸員だけというわけにはいかない、教育にいかにかしていくかという、そういった議論も必要かと思しますので、2年目の戦略みたいところが話し合えれば良いと思っております。以上です。

(片山教育長)

山内課長。

(山内文化財課長)

文化財課長、山内でございます。貴重な意見ありがとうございます。3万人というような数字で書かせてはいただいておりますが、今年度についても、現在で2万7,000人を超えるというようなことで、恐らく3万人を今年度は達成できるだろうと見込んでおります。来年度以降も、いろんなイベントを打ち上げながら、3万人を目指していくということに加えて、来年については、丹波市の資源をいかしたフィールドを、いろいろなフィールドがあります。例えば、文化財課であります黒井城であったりとか、柏原の陣屋であったりとか、そういうところも含めて、貴重な教育資源という形になりますので、先般、氷上回廊水分けフィールドミュージアムと西小学校をオンラインでつないで、教室でありながら博物館の鑑賞ができるというよう

な授業をさせていただいたところでございます。

来年度に向けまして、例えば、先ほど申し上げました柏原の陣屋や、黒井城の守閣部など、そういうところと教室をつないで、例えば、水曜日の5時間目、50分の間だけでも、こういった地域資源を活用した学習ができるというふうな取組、こういった部分に文化財課、それから、水切れフィールドミュージアムも含めて、学芸員総出で、こういった事業の展開が来年度できないかなと、現在、進めさせていただいているというふうなところでございます。以上でございます。

(横山委員)

ありがとうございます。教育委員、横山です。例えば、先ほど言われた世界ふしぎ発見に出たので、せめてLINEで広報してほしいなとか、1週間前にならないと広報できないというのはあったと思いますが、広報していただいたら、今、検索してもほんのちょっとですが分水嶺のユーチューブとか、これ、ユーチューブ、上がらないのですか。

(片山教育長)

あのとき、プロ野球の日本シリーズの時間が延びて、放送しようと思っていたことが放送できなかったという状況が生まれました。それで、黒井城も、本当は出る予定でしたので、結局、そこら辺りもプロ野球の関係で出なかったという状況があって、前もって、例えば、言うというようなことは、そのときの状況によって分からないので、分かる場合については、また広報していったらいいと思います。そのときは、そういう特殊な事情があったのは事実です。

(横山委員)

特殊な事情があったから、広報しなかったということですか。

(片山教育長)

映らなかったということです。

(横山委員)

丹波市民に広く、ふしぎ発見に出るということだけでも、教育委員会のLINEがせっかくあるので、あるいはホームページなり、まず広報しないと、たまたま見たら出ていたみたいな話をたくさん聞きましたので、その辺の広報戦略ですね。せっかく現場の職員たちが頑張っているのが、全く、丹波市は広報もしないというのは、非常に残念だと思いましたので、今からでもいいと思うので、ユーチューブとか何かあるのかと思って、今検索したら18秒ぐらいしか出てこなかったですが、せっかく丹波の資源が全国放送というときには、せめて、丹波市、あるいは、丹波市教育委員会としての広報をお願いしたいというところです。

(片山教育長)

山内課長。

(山内文化財課長)

文化財課長、山内でございます。貴重な意見ありがとうございます。文化財課長といたしまして、美術館も図書館も含めてですが、様々な取組をさせていただいておくことについては、知っていただくことが大事なので、SNS、LINE、フェイスブック、ホームページ、それから新聞報道等も活用して、様々な形で周知をさせていただいている状況ですが、私自身も、ふしぎ発見に出ることを広報に出すというところは、ちょっと抜かっていた、本当に私自身が失態であったと感じているところでございます。

先ほどおっしゃいましたとおり、これからも様々な形で皆様に知っていただくための取組、広報活動をしてまいりたいと思います。以上です。

(片山教育長)

ほかございますか。

深田委員。

(深田教育長職務代理者)

ありがとうございます。とはいえ、あの世界ふしぎ発見の放送については、何か皆、知っていました。時代かと思います。大分、SNSで拡散して、情報は伝達していましたが、ただ、今のように、もう一つあれば、周知がもっとできたかというような思いはあります。

例えば、ミュージアムの名前であります「水分れ」という、世界ふしぎ発見でも、分水嶺の一番低いところであると。この分水嶺というところ、そして、水分れ、それであそこへ出てきているわけで、それがこのミュージアムの根底にあるという、ここをやっぱり忘れずに、そして、そのために何か、講演会で費用なども予算に計上していただいたらいいのではないかと。もっと大々的に出てもいいのではないかとというような思いがありますので、今年の予算は無理でしょうが、来年以降、大々的に施設を活用して、水分れ、分水嶺、そして丹波を知っていただくという、何か企画ができればいいと個人的には思っているところです。また参考にしていただいたらと思います。

(片山教育長)

ありがとうございました。ほかにもございませんか。  
安田委員。

(安田委員)

教育委員の安田です。広報などによるタイムリーな情報発信という部分ですが、働き方改革のところで、若い先生方が学習に遅れのある方を頑張ってサポートされたりしますが、どうしても休み時間とか放課後だけではサポートし切れずに、サポートスタッフの方にも助けていただいているという状況をお聞きしていますが、その中で、サポートの方が、頑張って私たちがサポートしていても、どうしても保護者の方も一緒に関わってくれたりとか、目を向けてくれないとその学習は進まないという話を聞いたりですとか、学校の先生からも、もっと勉強したいという子にサポートしてあげられないという現実があるという話を何人か聞いておまして、広報のところにも、スクールサポートスタッフの活動ですとか、もっとこうやって教えてあげたいと思ったださる方を集めるきっかけとして、広報にもアップできないかと思えます。また御検討いただければと思います。

(片山教育長)

足立教育部次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長)

ありがとうございました。次長兼学校教育課長、足立でございます。安田委員とは常々、学校の様子を聞いたりしている中で、該当の学校からも同じような話は聞いております。ただ、やはりコロナでかなり家庭環境が、かなり複雑になっている御家庭もたくさんありまして、その中で子供の学習支援ということを家庭で十分できないと、その部分をやっぱり学校が担わざるを得ない状況が今、出てきているというのが現状で、その部分は把握しております。

学校でも、今、地域活動については、積極的に取り組んでいただいておりますので、その辺りも学校長とも話をしてみたいですし、ほかの学校についても、同じようなことで、まずは学校での周知というのが、一様に大事と思っておりますので、地域学校協働活動推進員も含めて、対応を考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

(片山教育長)

ほかにもございませんか。  
横山委員。

(横山委員)

2の(3)の地域資源による学校教育との連携のところ、博学連携事業というところがありますが、以前、どういった連携をしていくかという概念図、イラストみたいなものを示していただき、議論をしたことがありますが、その後、その話というのが、この場でなかなか議論した記憶がないので、その辺り、せっきく非常にいい取組、地域の魅力というところにおもしろい取組に着手していると思いますので、こういった場でもう少し議論をする機会を作っていただけたらと思います。

また、全体的に予算額は、まだお示しいただけない状態という理解でよろしいでしょうか。

(片山教育長)

藤原部長。

(藤原教育部長)

教育部長、藤原でございます。結論から言いますと、最終的な予算査定はまだ来年、学校統合の関係もありますので、確定していないというところがございます。その後、2月半ばぐらいには確定した予算というのは出てこようかと思っております。

(片山教育長)

博学連携事業については。

藤原部長。

(藤原教育部長)

教育部長、藤原でございます。文化財課と協議しながら、博学連携事業、いきものとか、また、フィールドミュージアムで行っておりますので、来年度、どのような形の中で、また教育委員さんとも、こういう状況だということで、お示しをさせていただきたいと思っております。またよろしく願います。

(片山教育長)

深田委員。

(深田教育長職務代理者)

「教育たんば」が、各家庭に配布されて、ここ数年全戸に配布しています。これを来年度からは、丹波市の教育にもありますように、関係学校、教職員等にのみ限定すると。ですから、今、各委員から出ています広報のありようを、教育たんばにも、ぜひ反映していただければというところです。

その中で、今回、気になったところがあるのですが、叙勲された先生方の名前が初めて書いてあったように記憶しています。先ほど教育長から、叙勲伝達の先生のお話がありました。その方の名前と、高齢者叙勲、88歳の方が受けられるという、この2名の方が書いてありました。何か広報、教育たんばという中では違和感がします。叙勲というのは、確かに祝いしてしかるべきかと思っております。このほかに、例えば、死亡叙勲があります。そういう叙勲を全部並べていくのか。それは新聞にも出ていますから、それも必要ないのではないかと。今度は学校関係者のみになってきますので、そういう部分は考えていただいて、やはり教育委員会が丹波市の教育をこう考えているんだという、そういう側面のみで、紙面を使っていたらありがたいという思いがします。以上です。

(片山教育長)

貴重な御意見ありがとうございます。今後、検討していきたいというように思います。

ほかございませんか。

山内文化財課長。

(山内文化財課長)

文化財課長、山内でございます。先ほどの横山委員さんのほうから、博学

連携の関係で協議を行ったというようなことで御意見を頂きました。また、先ほど深田委員からも、水分れフィールドミュージアムの今後の在り方や、1年間の振り返りも含めて、今後どのように持っていこうとしているのかというようなことに対しての協議というようなことでの意見を頂きましたので、先ほど、そういった部分も含めまして、今後の水分れフィールドミュージアムと、それから博学連携のことを併せまして、何らかの形で協議ができる場という形で設定できればと考えておりますので、またそのときに資料等も御提示しながら協議できればと考えております。以上でございます。

(片山教育長)

ほかございませんか。  
横山委員。

(横山委員)

前回のときに、ちーたんの館を管轄している課が移動してくるというお話がありましたが、その辺りのことが何もないですが、それは市長部局のほうで上がっているということですか。

(片山教育長)

教育部長。

(藤原教育部長)

教育部長、藤原でございます。今回のものにつきましては、現在の教育部の所管しているものというところで、現在、産業経済部恐竜課の所管替え、教育委員会の所管替えのことにつきましては、この12月の議会定例会で提案を現在しております。明日、24日が採決の日になっておりますので、それで確定しましたら、来年の4月から正式に教育部で所管をするということになってまいります。

(片山教育長)

よろしいでしょうか。ほかにごございませんか。  
それでは、たくさん来年度の予算について御意見いただきまして、ありがとうございました。質問がなければ、令和4年度教育委員会関係当初予算について終わります。

## 日程第7

その他

(片山教育長)

続きまして、日程第7、その他に入ります。その他、各課から連絡事項はありませんか。

## 日程第8

次回定例教育委員会の開催日程

(片山教育長)

続きまして、日程第8、次回定例教育委員会の開催日程について、事務局からお願いいたします。  
足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立です。次回の定例教育委員会は、1月27日木曜日の午前9時からの開催でお諮りをします。会場については、こちら、山南支所の教育委員会室ということでお世話になりたいと思っております。併せまして、当日午後に自然の家の教育委員会を開催したいという調整の申出がありますので、午後の予定も併せて御検討いただければありがたいと思っておりますが、どうでしょうか。

また、定例教育委員会の後にトライやる推進委員会を入れさせていただきたいと思っております。自然の家は、午後での調整をお願いしたいということをお願いしておりますので、御都合が合わなければ、自然の家は別日になるかと思

ます。

(片山教育長)

それでは、各委員さん、御都合はどうでしょうか。午後も大丈夫ですか。27日木曜日です。

ありがとうございます。それでは、1月の定例教育委員会の日程は、1月27日木曜日午前9時から、山南支所教育委員会会議室で開催いたします。その後も会が続きますが、よろしく願いいたします。

以上をもちまして全日程が終了いたしましたので、本日の定例教育委員会を閉会します。御苦労さまでございました。